

審議会等の会議の概要の記録

会議の名称	令和5年度第2回甲州市立地適正化計画策定アドバイザー会議
開催日時	令和6年3月11日 10時30分～11時50分
開催場所	甲州市役所本庁舎2階 第1会議室
議題	甲州市立地適正化計画（案）の方針「都市の将来像」について
出席委員	北村眞一、雨宮正明、宮原健一、宇野弘之、西山登、荻原雄司、細田智愁、石黒仁、小林茂夫
会議の公開又は非公開の区分	公開
会議を一部公開又は非公開とした場合の理由	—
傍聴人の数	0人
審議概要	<p>報告事項及び議事</p> <p>(1) 甲州市立地適正化計画（案）の方針「都市の将来像」について 本市の将来像について事務局より説明し、課題と方針について意見をいただいた。</p> <p>議事録は別紙のとおり。</p>
事務局に係る事項	<p>建設課 都市計画・まちづくり担当 道路・河川管理担当 住宅担当 出席者 6名</p> <p>連絡先：0553-32-5072</p>
その他	無し

第2回甲州市立地適正化計画策定アドバイザー会議 議事録

1 開会

2 事務局長あいさつ

3 会長あいさつ

4 傍聴希望者入室 傍聴希望者無し

5 議事

(1) 甲州市立地適正化計画（案）の方針「都市の将来像」について 事務局より説明

(会長)

まちづくりの方針について、上位計画として挙げられている総合計画と都市計画マスタープランの将来像には「歴史と文化」という文言が入っている。立地適正化計画の方針案では、「歴史と文化」に代わって「まちなかへ多世代が集う」という文言が入っているが、今回もどこかに歴史と文化というキーワードがあったほうがいいのではないか。

次のページに「都市ブランディングの展開」とあるが、何をブランディングするのかというと、歴史と文化があるのではないかと考えられる。ブランドとして何を戦略的・重点的に持っていくのかを考える上でも、歴史と文化は甲州市のブランドを支えるものだと思う。

(事務局)

まず将来イメージについては、上位計画であるマスタープランに歴史と文化についてうたっており、本市は文化財等が多数ある地域である為、将来イメージに盛り込むことを検討したい。

ブランディングについては、今まで市としては長い時間をかけてブドウや桃等の果樹栽培、またその二次加工品としてのワイン醸造の産業振興に取り組んできた背景がある。また歴史文化にも絡めて、ブドウ狩り、観光、イベントという分野で甲州市ブランドを確立してきた。

その努力をまちづくりの分野でも継続していき、新たに立地適正化計画を策定した上でのブランディングという形に変化させていかないとならないと考える。立地適正化計画の趣旨として居住の誘導、集約化があるので、方針2で示した甲州市のポテンシャルとして東京圏や甲府からの近接性、また「都会過ぎず田舎過ぎない」といった特徴を生かして、魅力あるエリアを創出していければと考えている。

(委員)

ブランディングという視点では、弊社も甲州市のブランドイメージを非常に重要なものと認識している。これまでも観光誘導も含め多くの観光客をこのエリアにお運びする、また首都圏に情報発信するという取り組みをさせていただいている。

居住誘導の施策では定住人口をどうやって現状維持または増やしていくのが重要だと思う。コロナ禍で乗客が減少したが、ある程度戻ってきたこともあり、1日3,000人以上の乗車を一定の基準として見ている。それを目指して一緒にできることはないか考えている。

働き方改革でかなり環境が整ったこともあり、テレワークなどの動きも進んでいるが、人との交流という部分では鉄道に加えて二次交通が必要になってくる。資料の中に「新たなモ

ビリティの検討」といった文言があるが、明るい将来を想像できるようなメッセージを発信できると良いと思う。

(事務局)

果樹のシーズンに賑わいを見せるエリアは勝沼地区が中心となっているが、地道なブランディングを観光や地域づくりにつなげていきたいと考える。

立地適正化計画は居住誘導の施策がメインですが、都市の骨格構造の中で位置づけた各拠点間の公共交通の充実も重要なものとして捉えている。市民課では公共交通計画を策定しているが、バス・デマンドバス・鉄道といった公共交通の軸を今後より強化して、居住と観光を両立させていきたいと考えている。

公共交通計画と立地適正化計画との整合を取り、住みよい環境、来ていただきやすい環境づくりに取り組んでいきたい。

(会長)

二次交通は重要だと考える。特にワイナリーはアルコールを提供するので、自家用車で来訪する方にとって宿泊の需要があると思うが、宿泊する場所があまりにも少ない。宿泊してワインや料理を楽しめるということは重要だと思う。

甲州市では観光振興計画を令和元年度に策定しているが、観光の質を変える必要があると感じている。観光分野の話になってしまうが、観光客の数を増やすことを目標にするのではなく、宿泊客の割合を増やすなど質をどう変えるかを検討すると良い。

バスルートについては、観光客目線では二次交通と言われているが、地元の視点では一次交通である。いずれにせよ重要である。

(委員)

市民の方がこのまちづくり方針をご覧になった時にどういう印象を受けるかということ、本当に実現できるのか、疑問に感じると思う。

今朝、塩山駅から歩いてみると、市役所の近隣にコワーキングスペースができているのを見つけた。利用者はいなかった。そういう現実を見てから資料を読むと、ワーケーションや二拠点居住がうたってあるが実現可能性が低いように感じる。

塩山駅前には1月にオープンしたばかりなので、今後利用率を上げて使っている様子が目に見えてくると、計画が実現できそうだという市民の期待も高まると思う。

ネットワークについて、塩山駅前のコワーキングスペースと勝沼支所のコワーキングスペースがうまく連携できると良いと思う。ビジネスをする人が、勝沼支所の前でも働けるし塩山でも働けるとなると地域の事業者さんとのつながりも出てくることとなる。

ネットワークや交通網の整備という点について、大学生や若い人の声を聞くと、JRは便利で良いという一方で、運賃が高いという意見が出た。しかしながら、各駅停車で行くのは時間的にも難しいという理由で高速バスを選ぶ人が多いようである。

勝沼の高速バスの停留所を降りてからの交通手段をどうするかという課題はあるが、高速バスも首都圏からの移動手段の一つとして入れていただきたい。市役所の横にも高速バスの停留所があるので首都圏からの様々なルートの一つとして、他地域との連携を考える上でも重要だと考える。また、横浜からもバスが出ている。

雁坂トンネル先の大滝トンネルがもう少しで開通するというニュースを目にしたが、埼玉や群馬との距離が近まるので、移住、連携なども考えられる。

都市機能はエリアごとに分かれているが、教育という視点が弱いように感じる。子育てについての記載があるが、教育の視点も入れていただければと思う。

(事務局)

施策展開の方向性については、可能性という面で記載している。方向性を明記することで国からの支援が受けられる可能性もあるということで記載している。

コワーキングスペースは利用者が少ないようである。勝沼地域にも市が運営するコワーキングスペースがあるが、利用率を上げることや、地元企業とのつながりをつくるということは重要である。観光商工課の事業ではあるが、我々都市計画・まちづくり担当としても、利用率の向上が市民の理解につながるという部分で努力をしていかないといけないと改めて感じた。

高速バスについては、ご指摘いただいたとおりである。

大滝トンネルの件についても記事を確認したが、秩父方面に観光で行きやすくなると感じた。逆にこちらに来ていただくという視点も再認識しなければいけないと考えている。

教育は非常に重要な分野であると市としても認識している。人口が減っている中で国全体の課題でもあるが、環境を整えることで若い世代に住んでいただけるよう教育の視点でもう少し厚く記述できるよう検討していきたい。

(会長)

計画実現性の面では難しいが、実現しないうちに次の方向性を出さなければならないことも多々あるとは認識している。広い視点で検討して、どれだけ実現できるかはわからないが計画内には記載していくこととなると思う。

都市計画や総合計画については、方向性を理解していただき、その中から状況を見ながら実現につなげていくというステップになる。ただし、ある程度実現しないと意味があるのかという議論になることは、事実であると思う。

(委員)

商業機能が市民病院の方面に移り、車社会の中で大型店が増えていっているという動きがあるが、それとは別に道の駅の誘致を計画の中に位置付けるのは如何か。

甲州市には国道 20 号、411 号、140 号と 3 本の国道が通っている。甲州市にはブドウや桃、桔露柿、さくらんぼ、イチゴなど 1 年間を通して何かの産物があるので、そういうもので PR していくのも良いと思う。人が集う場所も必要ではないかと感じている。

(会長)

道の駅は PR、情報発信の一つの拠点となる。歴史については資料館などが拠点となるが、農産物や特産品について発信する拠点は必要だと思う。

(会長)

勝沼にも農産物を売っている場所は点在しているが、全体を集約するような拠点がなくて、うまく取り組んでいけるといいと思う。

最後の都市の骨格構造のページで、大きい矢印で都市間の連携軸が表されているが、中央道からリニア新幹線の山梨県駅に向かうというネットワークも記載した方が良いと思う。中央道は勝沼インターチェンジが通過地点になっているが拠点になっていないので、東京方面行くときはバイパスを走ってきて勝沼インターから高速道路に乗ると思われる。については、矢印を追加して 20 号と高速道路をうまく結びつけて表現していただきたい。

(委員)

方針 4 は「市街地道路網の強化と公共交通体系の再構築」となっているが、その下の施策の文言では公共交通の再編が道路網の強化より先になっている。タイトルと施策の順番を合わせたほうがわかりやすくなると思うが如何か。

(委員)

仕事でキャリア支援をしているが、都内で働いた後に50歳を過ぎて山梨で起業した経営者の方と話した時に、今後はしばらく山梨で仕事をするが、老後は事業を売却して東京へ戻ると話されていた。車社会なので、病気になった時に安心して通院できる医療体制がないと気にされていた。

それを聞いてからこの計画を見ると、移住してきてくださいと呼びかけるだけではなくて、人生の最後をどう終えるかというところまで視点としてあっても良いと感じる。

施策としては交通の充実、医療体制の整備等になってくると思うが、甲州市では墓に入った後の話も出てくるかもしれない。そういう視点を持っている方もいる。

(会長)

山梨には甲州市に限らず、医療と交通の問題がある。80歳、90歳になっても車を運転している方もいる中で、甲州市は比較的バスルートが揃っていますが、自分の行きたいところに通っているとは限らない。多世代が集住するということで、長生きしても暮らしやすいというイメージができるようになると良いと思う。

(事務局)

首都圏に住んだことがないので不便に感じたことはないが、都会に暮らした方はそういう視点で見ていることに気づきがあった。

例えばクリニックが点在している中で公共交通を強化して利便性が高まれば、老後の安心という点で魅力を感じて居住先として選んでいただけるようになるかもしれない。

(会長)

タクシーも重要で、山梨県に限らずタクシーがもう少し使いやすい交通手段になればと思っている。

(事務局)

立地適正化計画の中で介護施設や福祉施設の分布を地図上に落として分析を行っていて、介護の担当に庁内検討会に入ってもらい情報共有を行っています。介護・福祉の機能についても立地適正化計画の中への記述について検討していければと思っている。

(委員)

医療の話になりますが、最近は電子カルテや遠隔診療の取り組みが進んでいる。離島などで役立つ取り組みだと思うが、それをそのまま適用すれば、甲州市に住んでいても東京の医療が受けられて、東京に住まなくてもよくなるかもしれない。

それをどう実現するかということで、DXはキーワードになる。計画の中に位置付けても良いかと思う。

(委員)

JRでもグループとして病院などの運営を行っているが、東京の西国分寺駅にオンライン診療のクリニックを昨年立ち上げた。

地域定住の課題というのは安全安心の問題が大きく、住みやすさを考える上で高度医療の話が出てくる。これから5Gの時代で、高度医療を遠隔で受けられる時代が目の前まで来ている状況であるので、オンラインで診療が受けられる場所などが、中心市街地の拠点にあれば安心かと思う。

(会長)

訪問医療、訪問介護などは今後重要になってくると思う。

立地適正化計画の中に入れるのは難しいかもしれないが、都市計画区域外の活性化についてもどこかで位置づけておいたほうがいいと思う。集落拠点として甲斐大和駅周辺が挙げられているが、例えば一之瀬高橋地区などの山間の集落はコンビニもない状況になっている。

(委員)

現況に対して課題というまとめ方になっているが、どの課題がどの方針にリンクしているかが見えにくく、パブリックコメント等で市民の方が読んだ時にわかりづらい資料になっていると思う。課題で箇条書きにしたものがその後の文章で少し抽象的になり、つながりが見えにくい。課題と方針に番号をつけて紐付けたり、人口・土地利用・住宅といった区分に分けて課題を整理し、方針と紐づけるというやり方もある。一つの提案として参考にしていただきたい。

説明の中で、6番目の課題は5つの方針に対して全般的に言えることだとあったが、計画書にもそういった説明を入れていただきたい。

計画書本編の36ページで、甲斐大和駅も地区拠点候補地に入るということであったが、甲州市都市計画マスタープラン27ページの拠点の位置づけでは、甲斐大和駅は勝沼支所と同じ分類になっている。立地適正化計画ではあえて別の位置づけにしているという理解で良いか。

(事務局)

地区拠点の位置づけについてはご指摘の通りである。

市民の方に対してやさしい計画、見やすい計画というのが大事だと思うので、客観的に見てわかりやすくなるよう見直してブラッシュアップしていきたい。

(会長)

課題等の関係性をしっかりと整合させたほうが読みやすくなると思う。

立地適正化計画は人口減少に対して都市機能を集約していく計画といわれているが、ただまとめるのではなく各機能を効率よく維持していくということだと思う。集約した結果遠くまで足を運ばないといけなくなり、交通でカバーしなければいけないのではなく、ある程度効率のいい拠点形成を考える必要がある。

コンビニなどはなかなか経営的に厳しい状況もある。DXの話も出てきましたが、うまく活用して課題解決につながればと考える。

(2) その他

特になし

8 傍聴希望者退室

●傍聴希望者無しのため省略

9 その他

事務局より連絡

10 閉会

(以上)